

## 「SEND プログラム タイチュロンコーン大学サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部3年 井形岳史

タイチュロンコーン大学サマースクールプログラムを通じ、私は日本のブランド力を再認識させられました。チュロンコーン大学では、主に文学部日本語学科の学生と交流をしたのですが、彼らはとても日本について理解をしており、アニメやアイドルといったサブカルチャーの分野では、むしろ私よりも圧倒的に知識を持っていました。また、街を見ても、日本車が走っていたり、日本製品が使われていたり、日本食店に人が集まっていたり、と、タイの人々の暮らしに、日本のものが根付いていました。世界的に見て、経済的な立場が落ちてきている、と報道されている日本ですが、ASEAN にとっては、おそらく経済的に成功した国の最たる事例であって、また、カッコいい文化の発信源として、まだまだ尊敬されているのだろう、ということを実感しました。

私はこのプログラムを通じ、将来はアジアを視野にして働きたいと考えるようになりました。私が今回交流したのはタイ人学生でしたが、皆とても優しく、勤勉で、もっと交流をしたい、と感じさせてくれる、魅力あふれる人ばかりでした。また、タイには日本とは全く違う歴史、文化、宗教観などがたくさんあり、そのどれもがとても興味深く、一生かけてでも理解していきたいと感じるものでした。広大なアジア大陸の中での古代仏教建築は、大規模かつ不可思議で、日本では感じられない壮大さがありますし、タイ人の国王への尊敬心などは日本人が天皇に持つそれとは全く違う意味があるように思えます。タイ人とは異なる価値観を持つ日本人として、タイ人と働きながら彼らについて深く理解できれば、とても嬉しいことです。

私は経済学部生で、日本の地域経済を学ぶゼミに所属しています。これまでは、日本を活性化するためにはどうすればいいか?ということを中心に考えてきましたが、せっかくの今回のサマースクールで気づいた自分なりの見解をこれまでの知識に加えながら、今後、日本とアジアの架け橋となり活躍できる人材になれるよう、努力したいと考えるようになりました。また、そのような人物となる上で関わる言語の問題についても、今回のサマースクールでは、タイ語の講座を受講し、日常会話を5分程度続けることができるレベルまで成長できたので、今後も継続的に学習を続け、さらにタイ語を理解したいと考えています。この努力こそ、タイでとてもお世話してくれた学生のみんなにできる最大の恩返しになると思います。

最後に、タイで講義していただいた先生方や京都大学、チュロンコーン大学で私たちのプログラムのために尽力して下さった職員の皆様、そして、一緒にプログラムに参加した京大生の仲間たちと、タイで二週間一緒にいてくれたチュロンコーン大学の学生のみんなに心から感謝したいです。ありがとうございました。